



2-1 道路交通の確保

基 安

(1) 除雪体制の強化

【現状と課題】

本町における除雪体制については、毎年策定する除雪計画に基づいて町除雪組合への委託、3箇所を除雪ステーション（除雪作業員詰所）を核として、道路、歩道除雪を中心に早朝の通勤、通学に支障がないよう除雪作業を行っている。しかし近年は、集中的・局地的な降雪や、通勤・通学時間直前の降雪により、除雪作業が遅れることもある。地域による降雪状況の違いで、除雪車の出動の判断が難しくなっている。

また、排雪場所が確保されておらず、除雪作業が十分に行うことができない道路もあり、排雪場所の確保が課題となっている。

【課題を解決するための実施計画】

○初動体制の強化

地域ごとに異なる降雪・積雪情報を的確に予測・把握し、除雪の初動体制の強化を図る。

○除雪モニターの配置による的確な気象情報の把握

町内各地区に除雪モニターを配置し、それぞれの地区の降雪・積雪の状況を把握し、除雪車の出動体制の強化を図る。

○GPS装置を活用した除雪車位置情報の利用

GPS機能を使用して把握できる除雪車の位置情報について、円滑な除雪体制に活用できるか調査検討を行う。

○排雪場所の確保

排雪場所が確保されておらず、除雪作業が難しい箇所について調査・検討し、所有者等に協力を求めるなど、排雪場所の確保を図る。

(2) 除雪機械の整備

【現状と課題】

除雪機械については、町が国の支援を受けながら導入している。

また、除雪車が入れない狭隘^{きょうあい}な町道の除雪については、自治区の除雪組合へ小型除雪機を貸与して除排雪作業を行っている。

【課題を解決するための実施計画】

○自治区への小型除雪機の導入

除雪車が入れない狭隘な町道の除雪を行うため、要望に応じて自治区への小型除雪機の導入を推進する。

○除雪機械の計画的な更新

除雪機械は、計画的に国の補助事業などを活用しながら更新する。

(3) 関係機関との連携強化

【現状と課題】

除雪作業については、国・県はもとより地域の除雪組合と連携しながら進めている。

毎年、降雪前に除雪計画説明会を開催し、自治区長に対して除雪路線の説明を行っている。円滑な除雪作業の実施には、自治区長をはじめ地区除雪組合との連携が不可欠となっている。

また、国土交通省郡山国道事務所では、一般国道 49 号の藤峠において、冬期間の通行障害による道路寸断に対する代替性の確保など、安全で円滑な交通の確保を目的とした会津防災事業が実施されており早期の完成が期待されている。国道 400 号及び国道 459 号とも幅員の狭い区間や急こう配区間が多く存在し、冬期間の通行の阻害となっており、両国道の改築事業の推進が期待されている。

【課題を解決するための実施計画】

○関係団体による連携会議の開催

除雪計画説明会のほか、国、県をはじめ、除雪オペレーター（除雪作業員）、除雪受託組合、地域の除雪組合など関係団体による連携会議を開催し、円滑な除排雪作業の推進を図る。

○国道改築事業等の整備促進

一般国道 49 号の会津防災事業や国道 400 号及び国道 459 号について、関係機関と連携して整備を促進する。

<一般国道 49 号会津防災事業>



[出典：国土交通省郡山国道事務所資料]

(4) 除雪オペレーターの育成確保

【現状と課題】

町直営の除雪オペレーターは、令和4年度に24人を雇用しており、平均年齢は、49.3歳であり、除雪受託組合では、60人（常時及び交代）で平均年齢は52.7歳である。高齢化、後継者不足が進行しており、人員の確保が難しくなっている。

また、除雪車の運行にあたっては、一定の経験と技術が必要であり、育成に向けた研修や講習会の開催や、オペレーターが休暇を必要とする際のバックアップ体制の充実が求められている。

【課題を解決するための実施計画】

○除雪オペレーターの免許取得のための補助制度の導入

除雪オペレーターの担い手不足解消のため、作業免許の取得にかかる費用の一部助成を検討する。

○除雪マイスター制度の導入

除雪マイスター（除雪名人）制度を創設し、優良オペレーターが操作方法を指導又は若手からの相談に対応できる仕組みを構築する。

○除雪オペレーターの通年雇用制度の推進

除雪オペレーターは冬期間のみの雇用者もおり、夏場の作業を含めた通年型雇用制度により、除雪オペレーターの確保を図ることも検討する。

○除雪作業の研修会や講習会の開催

経験が浅い除雪オペレーターを対象とした操作研修会を開催して技術の底上げを図る。

【数値目標】

項目名	単位	現状値	令和10年	令和15年	設定の理由
除雪オペレーターの確保	人	84	84	84	直営・委託（常時・交代 含み）の除雪オペレーターについて、高齢化が進み減少していくことが見込まれる中で、現状の除雪体制を5年後、10年後も維持していくため。
		※平均年齢50歳を目標とする			

■町民の役割（自助）

- 除雪に係る作業基準や除雪車の出動基準、排雪場所の必要性を十分理解し、除雪作業に協力する。
- 除雪作業に影響する路上駐車や道路への投雪はやめる。

■地域の役割（共助）

- 地区除雪組合を組織し、除雪車が入らない狭隘^{きょうあい}な道路の除排雪作業に協力する。

■行政の役割（公助）

- 降雪、積雪状況に対応した除雪の作業基準や除雪車出動基準を作成し、町民への周知を図る。
- 除雪オペレーターや除雪受託組合とともに排雪場所の確保や除雪作業の工夫・強化に努める。
- 除雪オペレーターなどの担い手の育成を図るため、補助制度等を検討する。
- 道路改良による安全な交通を確保する。
- 関係機関との連携により、国道・県道の整備促進を図る。

(1) 歩道除雪の推進

【現状と課題】

本町では、国道、県道、町道それぞれ歩道が設置されており、歩道除雪は、歩道が設置されている区間を対象に車道と同じ基準で実施している。歩行者の多い道路や、交通量が多く通行車両と歩行者の通行区分が必要な幹線道路、通学児童生徒が多く利用する通学路に対し、国・県と連携しながら歩道除雪を実施することで、歩行者の安全で快適な歩行空間の確保を推進していく必要がある。

また、積雪量が多くなると車道から歩道を通行する人が見えにくくなることから、定期的に車道と歩道間の除雪作業を行う必要がある。

【課題を解決するための実施計画】

○除雪出動基準による除雪作業

歩行者や児童生徒の通学に配慮した除雪作業を実施するため、除雪出動基準に基づいた作業をする。

○歩行者に対する交通安全対策の実施

冬期間の歩行者の安全で快適な歩道を確保するためにも、国・県などと連携しながら歩道除雪を実施していく。



[道路除雪：野沢地区]

(2) 通学路の確保

【現状と課題】

冬期間の歩道は、降雪や車道除雪の雪が堆積し、歩道機能が損なわれがちである。本町では、児童生徒の冬期間の安全な通学を確保するために、通学路の除排雪を行っている。また、吹き溜まりによる交通障害を防ぐために防雪柵を設置し、安全対策を図る必要がある。

【課題を解決するための実施計画】

○通学時間に合わせた除雪作業

児童生徒の安全を確保するため、通学時間に合わせた歩道除雪を実施する。

○防雪柵等の安全施設の設置

道路の吹き溜まりの解消や視界不良を改善するため、防護柵等の安全施設を設置する。



[防雪柵：尾野本地区]

■町民の役割（自助）

- 宅地から歩道への投雪や歩道への路上駐車はやめる。
- 歩道の除雪作業に協力する。

■地域の役割（共助）

- 地域の見守り活動による児童の安全な登下校を支援する。

■行政の役割（公助）

- 降雪、積雪状況に対応した歩道除雪基準を作成する。
- 降雪前に歩道の点検、清掃を行う。